

VOICE-BANK

日本の注目ベンチャー企業



日本発のポッドキャストビジネスモデルで

世界を驚かせる!

iTunesの対応で注目されるポッドキャストだが、それ以前から精力的に取り組んできた企業の1つがボイスバンクだ。音声ブログの先駆けとなるケロログの運営やさまざまな企業のポッドキャスト化支援を行うほか、リーダーソフト「アリゲーター」を独自に開発し、ポッドキャストのさらなる普及とビジネス化も目指す。代表取締役社長である木ノ川義英氏に、音声コンテンツへの思いと将来の目標について伺った。

株式会社ボイスバンクのプロフィール

所在地 兵庫県西宮市
設立年月 2001年11月27日
代表取締役名 木ノ川 義英(きのかわ よしひで)
社員数 14名(2005年10月現在)
ウェブ <http://www.voice-bank.co.jp/>
事業内容 ポッドキャストシステムやソフトの開発 / 運用、ウェブビジネスソリューションの企画販売、
広告代理業など



木ノ川 義英

編集部

Photo:渡 徳博

ポッドキャストの きっかけはFLASH ブログシステムを一から開発

取り組んでいる事業の概要をご説明いただけますか。

基本はウェブやシステムの構築です。特にFLASHを使って音声を扱うことをやってきて、動画も含めてそういったサイトを作らせてもらっています。データベースとFLASHは面白いと思っていますし、最近ではOS Commerceなどのパッケージを使った販売サイトの構築などを行っています。あと今は、やはりケロログの対策が非常に多いのですが、その経験を活かしたポッドキャスト用ASPサーバーのASS販売というのが大きいですね。

最近では、英語教材のアルクさんのポッドキャストもスタートさせました。配信だけではない使い方もしていますが、これはケロログをベースにした考え方ならではのものです。

音声ブログのケロログなども運営されていますが、ビジネスの柱は何ですか。

やはり、実利となるとシステム開発が多いです。VXMLのゲートウェイを代理販売していますが、日本ではNTTくらいしかやっていませんので、そこで安定した収入を得られればと考えています。電話はネットへの入り口となるツールなので、非常に可能性がいろいろと使えるなど。電話からインターネット上のデータベースにつなげられて、在庫管理やカード決済、音声を録音してデータベースに登録すれば外出先から聞くといったこともできます。

そうしたいくつかのパッケージを考えたときに、分かりやすい例の1つとして、



日本のポッドキャストの先駆けとなった音声ブログのケロログ。もちろん木ノ川社長自身も精力的に音声発信中！
<http://www.voiceblog.jp/>

電話から録音したものがネット上にファイルとしてアップされるという音声ブログとして開発したものがケロログなんです。でも、かえって分かりにくかったみたいですけどね(笑)。

製品としては、例えばキャンペーンなどでアンケートをしたり電話で資料請求を受けたりするためのシステムはすでにあります。それをVXMLゲートウェイと組み合わせて使ってもらえるものも用意してあります。

ポッドキャストに取り組み始めたきっかけは何ですか。

以前からVXML関連に興味があって、NTTコミュニケーションズさんのVポータル(VXMLを使った情報提供サイト)に協力していたのですが、やっぱり自分の製品ではないのでなかなか融通が利きません。もう少し自分たちで好きなようにやりたいと思っていたところ、米国のPLUM社というところがいいゲートウェイ製品を出しているのを知りました。僕らもVXMLエディターソフトを開発していましたし、それでやらせてほしいとって日本での独占販売権を得ました。

ちょうどそのころ米国に目が向いていたので、ポッドキャストというものが話題になっているのを知りました。それを

見て、うちも似たようなことをやったことがあるなと思って。

FLASHの動画と音声を切り離して、音声だけ使うと非常にレスポンスがいいんです。それをニュースティッカーなどと連動させると、更新してすぐに音声を流すことができるのですが、試しにFLASHの音声ファイルをMP3にして、RSSのタグを.swfから.mp3にしたところ、ファイルが落ちてきたんです。これはブログにできそうだなと思い、最初はMovable Typeを使おうとしたのですが、手直しが効かない。結局、自分たちで作ろうということになって、一からブログを作りました。とはいえ、ブログシステムなんて作った経験がありませんから、最初は「トラックバックって何だ？ これ必要なか？」みたいなことをしていましたね。

まあ、ITの人からいわせると、ポッドキャストは技術的にはたいしたことないんですよ。ただ、あるとき放送局に行く機会があって、そこで感じたのは非常にアナログ的な世界だなど。そこで、ポッドキャストというものがあってデータの管理にも便利だという話をしたら興味を持ってきてコンテンツを一度作ってみようということになりました。

そのあと、いくつかのFM局でポッドキャストを始める際に、お手伝いさせてもらっています。

震災が契機で触れたネット 起業のきっかけは自転車！？

ネットやITの分野にかかわろうと思った理由はなんですか。

きっかけは、1995年の阪神淡路大震災です。情報処理センターのボランティアがあって、そこでは震災の膨大な情報をデータベースに登録して行って、電話などで問い合わせがあると検索して答えるという活動をしていました。

そのシステムを作っていた人たちが東

京に帰ってしまうということで、どうしようかといっていたら、メールやネットというものがあるよと教えてくれました。そこからインターネットってすごいなと思って。ただ、最初は趣味程度で、ちょうどITバブルで起業がはやった時期でしたが、そのときは起業とかにはあまり興味はありませんでした。

起業のきっかけは自転車です。GWSLAというサイクルスポーツ関連のNPOをずっとやっていますが、けっこう時間をとられます。もともとは不動産の企画営業でしたが、サラリーマンではだめだなどと思って、それで独立しました。

音を持つ生感とダイレクト感 クリエイターの台頭に期待

ずっと声や音にかかわってきているよ

うですが、何かこだわりみたいなものはありますか。

声って近い感じがするじゃないですか。『世界の中心で、愛をさけぶ』なんかも声のコミュニケーションが要素にありますけど、やはり声ならではのものがありますよね。同じ「よろしくお願いします」とか「申し訳ないです」って言葉でも、文字と声とでは伝わり方が異なります。

絵文字なんかも伝達手段として面白いですし否定はしませんが、声だと響くっていうのはやっぱりあるんじゃないですかね。それが、デジタルを使うと簡単に扱うことができますけど、今まではあまりされていませんでした。例えば、手紙に押し花をつけたりする感覚で、ひと手間かける。年賀状は送るんだけど、さらに子どものビデオメールを送ったりす



オフィスは雑然としており、ごく普通の事務所の雰囲気。この大阪支店のほかに、兵庫県西宮市の本社と東京支店がある。米国とのやりとりのため、ニューヨーク時間と日本時間を示す2つの時計を用意(右上の写真)。



ると非常に喜ばれたりしますよね。

ただ、ツールが難しいんですよ。ビデオメールも、ちゃんと見られた人とそうでない人がいました。ポッドキャストは注目されているので、いろいろと整備されて「これとこれを買って、登録すれば誰でも簡単に聞けるよ」というところまでいくといいですね。今、ソフマップさんといっしょに、ポッドキャストを始めるためのパッケージを企画しています。今後はオリジナルPCとの組み合わせだけでなく、凝った制作ニーズにも対応できるように、ソフマップさんの音楽制作の専門店「CREATORS LAND」を活用した提案もしていきたいですね。

ポッドキャストの今後の可能性というものは、どのように見えていますか。

ラジオというのは、パッとすぐに情報を出せる処理能力の高いメディアだったと思います。それがインターネットが出てきて、場合によってはラジオよりも早い情報が出せるようになってきました。その中で、ラジオの有用性というのが軽視されるような時期がここしばらくあったように思います。でも、声の生感とかダイレクト感みたいなものがもともと音にはありました。それがポッドキャストですばやくコンパクトに出せるようになったことで、改めて見直されるのではないかと。

あと、ラジオ局がやるのもいいのです

が、今後はそうじゃない素人でもいいコンテンツを作って、人気を集めるようになるんじゃないでしょうか。そうしたら、音楽使用料を払ってでもポッドキャストで番組を作ってもいいと思いますし、そのクリエイターが自分でスポンサーを探してきて番組をやるというのもありじゃないかなと。現実には、音楽の使用料が高い気がしますけど。

日本発のビジネスモデルがどこまで通じるか試したい

11月に米国で開催される「Portable Media EXPO」という、ポッドキャストに関するイベントの日本事務局をされていますね。

3月ごろに、主催のTNC New Mediaというところに電話して、日本でもポッドキャストを広めたいので、何か一緒にやれないかという話を持ちかけました。もちろん日本でも今年初めてなので何もできないかもしれないけども、とりあえずやってみよう。

内容はカンファレンスが中心になるとは思います。やはり音楽のライツマネジメントとビジネスモデルの事例紹介になりそうな感じです。そういう意味ではシンポジウム的なものかもしれません。まあ今年初めてのイベントですので、誰にもわからないんですけどね。

もちろん僕も参加しますが、世界中から関係者が集まってくるので、そこで日本の会社として同じ列に並んでいきたいですね。僕らもアリゲーターというソフトには自信を持っていますし、世界を見ても同じようなソフトはほとんどないので、そこで僕らのビジネスモデルをぶつけたい。日本のビジネスモデルや事例紹介をして、それが彼らにとって響くものなのかどうか見てみたいです。

今後の目標などは。

Odeo.comのように、番組を作るツールを用意していて、かつポータルにもなっているという姿は目指したいです。アリゲーター自体はその可能性を持っていると思いますし、映像も扱えますから面白いことができると考えています。米国で「日本人がここまで考えたのか!」と、ちょっと驚かせるようなことをしたいですね。なかなか時間がとれなくて思うように進まないのですが、できる限り早く英語版の提供も始めたいと思っています。ケロログ自体も1つの通過点ですが、ユーザーからのリクエストをもらって改良を続けているので、やることリストがたくさん溜まっています。それが一通りなくなったら、ケロログモデルとして海外に出してもいいかなと考えています。

個人が自分でコンテンツを作って売り込めるというのは、ネットの最大の武器じゃないですか。それがリッチコンテンツでできるというのは、とても面白いです。そこにもしツールの壁というものがあるとしたら、それを乗り越えられるようなものをどんどん出していきたいなと思っています。

ありがとうございました。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp